Ⓑ

平成 27 年度　第 1 次試験問題

財務・会計

1 日目　　11：30～12：30

1. 開始の合図があるまで、問題用紙に触れてはいけません。
2. 監督員の指示に従って、マークシートに受験番号と生年月日を次のとおり記入、マークしてください。記入、マークが終わったら再確認をして、筆記用具を置いて、試験開始の合図があるまでお待ちください。

(1)　受験番号の記入
　受験票に印字されている受験番号を、該当欄に記入してください。

(2)　受験番号のマーク
　受験票に印字されている受験番号を、受験番号のマーク欄にマークしてください。

(3)　生年月日の記入
　受験票に印字されている生年月日を、該当欄に記入してください。

〔記入例〕　昭和 59 年 3 月 7 日生まれ→

昭和	5	9	0	3	0	7

3. マークシート記入上の注意事項

次の事項を守らない場合、採点されませんので、注意してください。

(1)　HB または B の鉛筆またはシャープペンシルを使用して、○部分をはみ出さないように、きれいにマークしてください。鉛筆またはシャープペンシル以外の筆記用具を使用してはいけません。

良い例	悪い例				
●					 うすい

(2)　修正する場合は、プラスチック製の消しゴムできれいに消して、消しくずをマークシートから払い落としてください。

(3)　所定の欄以外にマークしたり、記入したりしないでください。

(4)　マークシートを汚したり、折ったりしないようにご注意ください。

(5)　解答は、選択肢または解答群の中からひとつ選び、所定の解答欄にマークしてください。

4. マークシートは、必ず提出してください。
5. 終了の合図と同時に筆記用具を直ちに置いてください。
6. 試験開始後 30 分間、試験終了前 5 分間は退室できません。

Ⓑ

DKJC-1B

第 1 問

以下の資料に基づいて、今期の売上原価として最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【資　料】

期首商品棚卸高　　120,000 円

当期商品純仕入高　　650,000 円

期末帳簿棚卸数量　　1,300 個（原価@100 円）

期末実地棚卸数量　　1,000 個

棚卸減耗損は売上原価とする。

〔解答群〕

ア　610,000 円

イ　640,000 円

ウ　670,000 円

エ　700,000 円

第 2 問

本支店会計において本店集中計算制度を採用している場合、A 支店から B 支店へ現金 200,000 円を送付したときの B 支店の仕訳として、最も適切なものはどれか。

ア　（借）B 支店　200,000　（貸）A 支店　200,000

イ　（借）現　金　200,000　（貸）A 支店　200,000

ウ　（借）現　金　200,000　（貸）B 支店　200,000

エ　（借）現　金　200,000　（貸）本　店　200,000

第 3 問

決算日現在の当店の当座預金勘定の残高は 339,000 円であったが、銀行から受け取った残高証明書と一致しなかったので、原因を調査したところ、次の⑴～⑶の事実が判明した。

⑴ 福島商店に仕入代金として振り出した小切手 50,000 円が、決算日現在では銀行に未呈示であった。

⑵ 得意先宮城商店から売掛金の支払いとして当座預金口座に 71,000 円が振り込まれていたが、決算日までに通知が届いていなかった。

⑶ 販売手数料 34,000 円の入金を 43,000 円と誤って記帳していた。

このとき、当座預金の残高として最も適切なものはどれか。

ア　351,000 円
イ　401,000 円
ウ　409,000 円
エ　419,000 円

第 4 問

株主総会の決議により、その他資本剰余金を取り崩して 600,000 円配当することにした。なお、資本金は 4,000,000 円、準備金の合計は 950,000 円である。このとき積み立てるべき準備金の種類と金額の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【準備金の種類】

a　資本準備金

b　利益準備金

【金額】

c　50,000 円

d　60,000 円

〔解答群〕

ア　a と c

イ　a と d

ウ　b と c

エ　b と d

第 5 問

次の仕訳の取引として最も適切なものを下記の解答群から選べ。

(借)仕　　入　500,000　(貸)支払手形　500,000

〔解答群〕

ア　現金 500,000 円を約束手形を振り出して借り入れ、この現金で商品 500,000 円を仕入れた。

イ　商品 500,000 円を仕入れ、為替手形を振り出し、得意先の引き受けを得て仕入先に渡した。

ウ　商品 500,000 円を仕入れ、代金として自己宛為替手形を振り出した。

エ　商品 500,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。

第 6 問

原価計算に関する記述として最も適切なものはどれか。

ア　原価計算における総原価とは、製造原価を意味する。

イ　原価計算は、財務諸表を作成する目的のためだけに行う。

ウ　原価計算は、製造業にのみ必要とされる計算手続きである。

エ　材料費・労務費・経費の分類は、財務会計における費用の発生を基礎とする分類である。

第7問

次の資料は、工場の20X1年8月分のデータである。このとき、製造指図書#123の製造原価として最も適切なものを下記の解答群から選べ。なお、すべて当月に製造を開始した。

【資　料】

(1) 製造直接費

製造指図書	材料消費量	材料単価	直接作業時間	賃　率
#121	650 kg	@110円／kg	90時間	1,000円／時
#122	750 kg	@110円／kg	100時間	1,000円／時
#123	1,000 kg	@110円／kg	110時間	1,000円／時

(2) 製造間接費

実際発生額：90,000円

(3) 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として各製品に配賦する。

〔解答群〕

ア　212,500円

イ　220,300円

ウ　253,000円

エ　262,500円

第 8 問

販売予算が以下のとおり編成されていたとする。いま、第 2 四半期(Q 2)の実際販売量が 1,100 個、販売価格が 99,000 円であったとする。数量差異と価格差異の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

販売予算	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	合 計
販売量(個)	1,000	1,200	1,400	1,400	5,000
売上高(万円)	10,000	12,000	14,000	14,000	50,000

〔解答群〕

ア　数量差異 900 万円(不利差異)と価格差異 210 万円(不利差異)

イ　数量差異 1,000 万円(不利差異)と価格差異 110 万円(不利差異)

ウ　数量差異 1,100 万円(不利差異)と価格差異 10 万円(不利差異)

エ　数量差異 1,200 万円(不利差異)と価格差異 90 万円(有利差異)

第 9 問

キャッシュフローの減少額として最も適切なものはどれか。

ア　減価償却費

イ　仕入債務の増加

ウ　棚卸資産の増加

エ　長期借入金の増加

第10問

前期と今期の損益計算書は次のように要約される。下記の設問に答えよ。

損益計算書　　（単位：千円）

	前　期		今　期	
売上高		24,000		28,000
変動費	14,400		15,400	
固定費	7,200	21,600	9,000	24,400
営業利益		2,400		3,600

（設問１）

今期の損益分岐点売上高として最も適切なものはどれか。

ア　12,000 千円
イ　16,400 千円
ウ　18,000 千円
エ　20,000 千円

（設問２）

収益性に関する記述として最も適切なものはどれか。

ア　損益分岐点比率が前期よりも悪化したのは、固定費の増加による。
イ　損益分岐点比率が前期よりも悪化したのは、変動費率の低下による。
ウ　損益分岐点比率が前期よりも改善されたのは、固定費の増加による。
エ　損益分岐点比率が前期よりも改善されたのは、変動費率の低下による。

第11問

次の貸借対照表と損益計算書について、下記の設問に答えよ。

貸借対照表(平成 X5 年度)　　(単位：千円)

資産の部		負債および純資産の部	
Ⅰ　流動資産	80,000	Ⅰ　流動負債	100,000
現金・預金	4,000	支払手形・買掛金	30,000
受取手形・売掛金	32,000	短期借入金	30,000
棚卸資産	18,000	その他	40,000
その他	26,000	Ⅱ　固定負債	68,000
Ⅱ　固定資産	220,000	Ⅲ　純資産	132,000
資産合計	300,000	負債・純資産合計	300,000

損益計算書(平成 X5 年度)　(単位：千円)

Ⅰ　売　上　高	440,000
Ⅱ　売上原価	320,000
売上総利益	120,000
Ⅲ　販売費・一般管理費	100,000
営業利益	20,000
Ⅳ　営業外収益	
受取家賃	9,500
Ⅴ　営業外費用	
支払利息	1,500
その他	5,000
税引前当期純利益	23,000
法人税等	11,500
当期純利益	11,500

（設問１）

総資産回転率として最も適切なものはどれか。

ア　0.68 回
イ　0.87 回
ウ　1.25 回
エ　1.47 回

（設問２）

インタレスト・カバレッジ・レシオとして最も適切なものはどれか。

ア　13.3 %
イ　20.2 %
ウ　13.3 倍
エ　20.2 倍

第12問

A 社は、株主に対する利益還元政策を行うこととした。利益還元政策として、最も不適切なものはどれか。なお、A 社は十分な現金を所有しており、財務的破綻について考慮する必要はない。

ア　株式の分割
イ　記念配当の実施
ウ　自己株式の取得
エ　普通配当の増配

第13問

MM 理論に基づく最適資本構成に関する以下の記述について、下記の設問に答えよ。

MM 理論の主張によると、完全な資本市場の下では、企業の資本構成は企業価値に影響を与えない。しかし、現実の資本市場は完全な資本市場ではない。そこで、完全な資本市場の条件のうち、法人税が存在しないという仮定を緩め、法人税の存在を許容すると、負債の増加は［ A ］を通じて企業価値を［ B ］ことになる。この条件下では、負債比率が［ C ］の場合において企業価値が最大となる。

一方で、負債比率が高まると、［ D ］も高まることから、債権者も株主も［ E ］リターンを求めるようになる。結果として、［ A ］と［ D ］の［ F ］を考慮して最適資本構成を検討する必要がある。

（設問１）

記述中の空欄Ａ～Ｃにあてはまる語句の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

ア　A：支払利息の増加による株主価値の低下　B：高める　C：　0 %
イ　A：支払利息の増加による株主価値の低下　B：低める　C：100 %
ウ　A：節税効果　B：高める　C：100 %
エ　A：節税効果　B：低める　C：　0 %

（設問２）

記述中の空欄Ｄ～Ｆにあてはまる語句の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

ア	Ｄ：債務不履行(デフォルト)リスク	Ｅ：より高い	Ｆ：トレードオフ
イ	Ｄ：債務不履行(デフォルト)リスク	Ｅ：より低い	Ｆ：相乗効果
ウ	Ｄ：財務レバレッジ	Ｅ：より高い	Ｆ：相乗効果
エ	Ｄ：財務レバレッジ	Ｅ：より低い	Ｆ：トレードオフ

第14問

以下のＢ社の資料に基づいて加重平均資本コストを計算した値として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。なお、Ｂ社は常に十分な利益を上げている。

株主資本(自己資本)コスト	10％
他人資本コスト	5％
限界税率	40％
負債の簿価	600百万円
負債の時価	600百万円
株主資本の簿価	1,000百万円
株主資本の時価	1,400百万円

〔解答群〕

ア　7％

イ　7.375％

ウ　7.6％

エ　7.9％

第15問

C 社は、取引先に対して貸付けを行っている。当該貸付金は、以下のようなキャッシュフローをもたらす予定である。現在価値の計算について、下記の設問に答えよ。なお、現行の会計基準との整合性を考慮する必要はない。

① 元本は 100 万円、貸付日は 20X1 年 4 月 1 日、貸付期間は 4 年である。
② 利息として、20X2 年から 20X5 年までの毎年 3 月 31 日に 6 万円が支払われる。
③ 満期日の 20X5 年 3 月 31 日には元本の 100 万円が返済される。

（設問 1 ）

この貸付金の、貸付日時点の現在価値として最も適切なものはどれか。なお、割引率は 6 %とする。

ア　792,000 円
イ　982,200 円
ウ　1,000,000 円
エ　1,240,000 円

（設問２）

貸付けを行っている取引先の財政状態が悪化し、元本の一部が回収不能となる可能性が高まっていることが確認された。このとき、現在価値の計算は（設問１）と比べてどのように変化するか、最も適切なものを選べ。

ア　割引率が高くなるため、現在価値は大きくなる。
イ　割引率が高くなるため、現在価値は小さくなる。
ウ　割引率が低くなるため、現在価値は大きくなる。
エ　割引率が低くなるため、現在価値は小さくなる。

第16問

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

D社は、4つの投資案(①～④)の採否について検討している。同社では、投資案の採否を正味現在価値法(NPV法)に基づいて判断している。いずれの投資案も、経済命数は3年である。

4つの投資案の初期投資額および第1期末から第3期末に生じるキャッシュフローは、以下の表のとおり予測されている。初期投資は第1期首に行われる。なお、法人税は存在せず、割引率は8％とする。

(単位：百万円)

	キャッシュフロー				NPV
	初期投資	第1期	第2期	第3期	
投資案①	−120	50	60	70	33
投資案②	−120	70	60	50	A
投資案③	−160	80	80	80	B
投資案④	−120	40	40	40	C

（設問１）

投資案②のNPV（空欄A）および投資案③のNPV（空欄B）にあてはまる金額の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。なお、NPVの計算にあたっては、以下の表を用いること。

割引率８％の場合の複利現価係数および年金現価係数

	１年	２年	３年
複利現価係数	0.93	0.86	0.79
年金現価係数	0.93	1.78	2.58

〔解答群〕

ア　A：22百万円　　B：30百万円

イ　A：33百万円　　B：30百万円

ウ　A：33百万円　　B：46百万円

エ　A：36百万円　　B：30百万円

オ　A：36百万円　　B：46百万円

（設問２）

４つの投資案は相互に独立しており、D社は複数の投資案を採択することが可能である。しかし、資金の制約があり、初期投資額の上限は380百万円である。このとき、採択すべき投資案の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

なお、D社は他の投資案を有しておらず、380百万円のうち初期投資に使用されなかった残額から追加のキャッシュフローは生じない。

ア　投資案①、投資案②、および投資案③

イ　投資案①、投資案②、および投資案④

ウ　投資案②および投資案③

エ　投資案②および投資案④

オ　投資案③および投資案④

第17問

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

E社は、2つのプロジェクト(プロジェクトAおよびプロジェクトB)の採否について検討している。両プロジェクトの収益率は、今夏の気候にのみ依存することが分かっており、気候ごとの予想収益率は以下の表のとおりである。なお、この予想収益率は投資額にかかわらず一定である。また、E社は、今夏の気候について、猛暑になる確率が40％、例年並みである確率が40％、冷夏になる確率が20％と予想している。

	今夏の気候		
	猛暑	例年並み	冷夏
プロジェクトA	5％	2％	−4％
プロジェクトB	−4％	2％	8％

(設問1)

プロジェクトAに全額投資したと仮定する。当該プロジェクトから得られる予想収益率の期待値および標準偏差の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

ア　期待値：1％　　標準偏差：3.4％
イ　期待値：1％　　標準偏差：11.8％
ウ　期待値：2％　　標準偏差：3.3％
エ　期待値：2％　　標準偏差：10.8％

（設問２）

２つのプロジェクトに関する記述として最も適切なものはどれか。

ア　２つのプロジェクトに半額ずつ投資することで、どちらかのプロジェクトに全額投資した場合よりもリスクが低減される。

イ　２つのプロジェクトの予想収益率の相関係数は０以上１未満となる。

ウ　プロジェクトＡのリスクのほうがプロジェクトＢのリスクよりも大きい。

エ　プロジェクトＢの期待収益率は負である。

第18問

資本資産評価モデル（CAPM）に関する記述として最も適切なものはどれか。

ア　βが０以上１未満である証券の期待収益率は、無リスク資産の利子率よりも低い。

イ　βがゼロである証券の期待収益率はゼロである。

ウ　均衡状態においては、すべての投資家が、危険資産として市場ポートフォリオを所有する。

エ　市場ポートフォリオの期待収益率は、市場リスクプレミアムと呼ばれる。

第19問

ポートフォリオ理論におけるリスクに関する記述として最も適切なものはどれか。

ア　安全資産とは、リスクがなく、期待収益率がゼロである資産のことである。

イ　収益率が完全な正の相関を有する２つの株式へ分散投資しても、リスク分散効果は得られない。

ウ　同一企業の社債と株式への投資を比較すると、リスクが高いのは社債への投資である。

エ　分散投資によって、リスクをゼロにすることができる。